

“いのちの米”自慢

右は、しんぶん「赤旗」の書評欄で見つけた記事です。ここで紹介されている本の現物が下の写真。「北海道女性史研究」特集号No.1と銘打たれています。

同誌は、主宰してきたT先生の高齢と病気のため、いったん終刊となっていました。そのT先生は、旭川市にお住まいです。ガンを患って、物が食べられなくなり、一時は点滴治療にまで病状が悪化したそうです。ところが、たまたま縁あって届いたすずき産地の米で炊いたおかゆなら口にすることができたとか。

とは又聞きですが、それ以来、ずっと米を購入いただいています。また、毎回同封している「たまご新聞」には励ましの手紙もいただいたりしています。

そうして数年、今回の特集号の発行です。T先生が病気に打ち克つ

レダ...

■北海道女性史研究が特集号
 ○四年に幕を下ろした『北海道女性史研究』（高橋三枝子代表）が特集号第一号を発刊。
 「このままでいいのかわいまいまの日本」を特集、十九人が戦争体験、日の丸・君が代の強制とのたたかいなどを寄稿しています。「戦争はなし崩しに始まり拡大していく」と、憲法九条擁護の決意にあふれています。

た証しとも思います。なにがしか、うちの米もお役に立てたとすれば、百姓冥利につきるというものです。

ちなみに同誌には、鈴木サトさんとその息子と、その嫁の母と兄と、恥ずかしながら関係者が4人も寄稿しています。

手もとに余部もありますので、声をかけていただければ差し上げます。ご高覧いただければ幸いです。



里のギャラリー 14

「好天つづきで、描く時間がとれない」などと野良の画伯は申しております(”;



スナック? それともスナック? えんどう

前に紹介したかなあ「スナックえんどう」と「スナックえんどう」のちがひ。以下はネット<http://go.gob.jp/go/endo>からの転載です。

“このふたつは同じものを指しており、1970年代にアメリカから輸入されてきた品種で、正式名称は“スナックえんどう”だという。

ところが、日本では販売するメーカーによって、商品名を“スナックえんどう”とするところが出てきたため、いつの間にかスナックとスナックが共存するようになったとか。そ

こで、昭和58年には、農林水産相が“スナックえんどう”に統一するよう決めたそうなのだが、実際のところは“スナックえんどう”も、まだまだ存在している様子。

ちなみに、英語で“スナックえんどう”は、snap-bean（スナックビーン）とあって、「ポキンと折れる」や「パチンと音をたてる」といった

意味を持つ、snap＝スナップからきているみたい。

日本で“スナックえんどう”となったのは、軽食のスナックみたいに食べられる、またスナックよりスナックの方が日本人に親しみやすいから、などの説があるようだ。たしかに日本人には、スナックの方がしっくりくるような気がする。

既に“スナックえんどう”も浸透しているし、商品名として間違いではないかもしれない。でも今後は一応、正式名称“スナックえんどう”として覚えてください!”